

〔三宅島管内の遺伝資源の収集・評価・保存〕

## パッションフルーツの品種比較試験

～「ルビースター」,「サマークイーン」の三宅島における品種特性～

両角正博・坂井亮太・沼田洋子

(島しょセ三宅)

---

【要 約】「ルビースター」は三宅島の主力品種「台農1号」に準ずる品種特性を備え、収穫果率が高く、緑色で落果する早期落果率が低い。島内に導入できる有望品種である。

---

### 【目 的】

三宅島のパッションフルーツの主力品種「台農1号」は八丈島から導入され5年が経過し、出荷量は全量が本品種である。一昨年度、小笠原農セから導入した「ルビースター」と「サマークイーン」を三宅島で栽培し、その品種特性を評価し、栽培普及の一助とする。

### 【方 法】

2011年7月26日に挿し木し、10月17日に直径30.5cmポットに鉢上げ後、11月4日に事業所内パイプハウスに樹間1.5m(6.75㎡/樹)に「ルビースター」,「サマークイーン」,「台農1号(対照品種)」を各1樹ずつ定植した。結果枝は7本とし、開花数は毎日計数し、人工授粉を行った。肥培管理などは慣行に従い、棚下に果実受けのネットを設置した。果実が棚下のネットに落下した日を収穫日として重量・果径(長径・短径)を計測した。また収穫後5日以上経過した果実の糖度(Brix%)とpHを糖度計(型番PAL-1, ATAGO製)とpHメーター(型番B-212, HORIBA製)を用いて調査した。

### 【成果の概要】

1. ハウス内温度と日照時間：開花に影響を与えるとされる30℃以上の日は、開花期間中に6日あり、その大半が7月の第1週で、週平均最高温度が30℃に達した。週平均日照時間は、6月上中旬が低く17日の週は1.6時間であった(図1)。
2. 開花数：週あたりの開花数は対照品種「台農1号」が全般的に高く推移し、「ルビースター」も類似した傾向にあった。「サマークイーン」は6月上中旬には開花がみられなかった(図2)。1樹あたりの総開花数は、「台農1号」が239と最も高い値を示した。
3. 週あたりの収穫果数：各品種とも6月中旬から収穫が開始し、「サマークイーン」が7月上旬に、「ルビースター」が7月下旬に、「台農1号」が8月上旬に収穫最盛期となった(図3)。
4. 収量および収穫特性：収量は対照品種「台農1号」が2321kg/10aと最も多く、「ルビースター」は2021kg/10aでこれに続き、「サマークイーン」は最も低い723kg/10aであった。「ルビースター」は収穫果率が97.5%と高く、緑色の状態で落果する早期落果率も53.8%と低い値を示した(表1)
5. 果実品質：「サマークイーン」は果実重、果径ともばらつきが大きかった。糖度、pHは品種による差はみられなかった(表2)。
6. まとめ：「ルビースター」は三宅島の主力品種である「台農1号」に準ずる品種特性を備え、収穫果率が高く、緑色で落果する早期落果率が低い。島内に導入できる有望品種である。次年度も継続して品種特性を評価し、最終評価を行う。

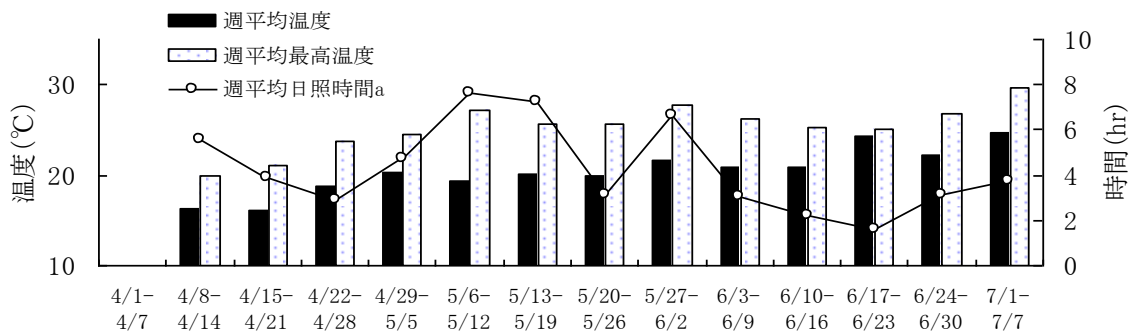


図1 パッションフルーツ栽培ハウス内の週あたりの温度と週平均日照時間の推移  
a)週平均日照時間は気象庁統計情報(三宅島)からのデータ

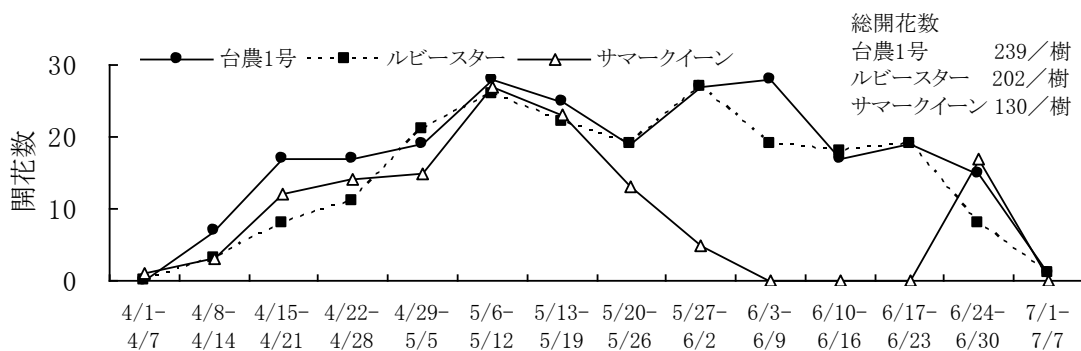


図2 各品種の週あたりの開花数の推移

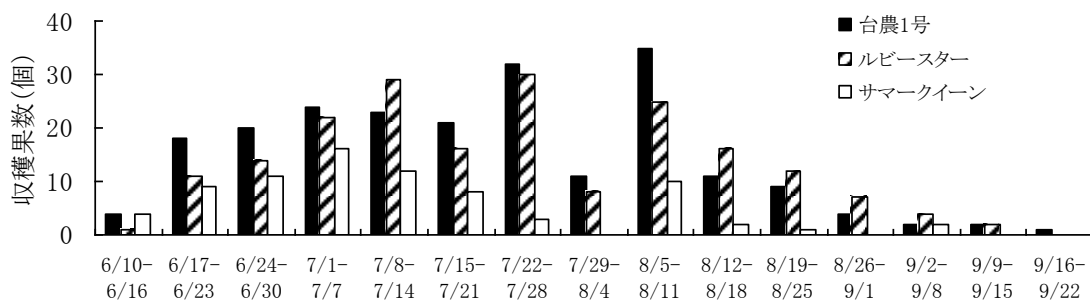


図3 各品種の週あたりの収穫果数の推移

表1 各品種の収量および収穫特性

品 種	収 量			収穫果率 <sup>a</sup> (%)	早期落果率 <sup>b</sup> (%)
	収穫果数 (個/樹)	収穫量 (個/m <sup>2</sup> )	10aあたりキロ換算 (kg/10a)		
台農1号(対照品種)	217	24.1	2320.8	90.8	64.2
ルビースター	197	21.8	2020.9	97.5	53.8
サマークイーン	78	8.6	723.3	60.0	84.6

a) (収穫果数/開花数) × 100

b) (緑色の状態で落果した果数/収穫果数) × 100

表2 各品種の果実品質

品 種	果実重 (g)	長径 (mm)	短径 (mm)	糖度 (Brix%)	pH
台農1号(対照品種)	96.3 ± 12.6	73.0 ± 3.5	62.9 ± 3.4	17.0 ± 1.1	3.1 ± 0.4
ルビースター	92.7 ± 9.5	72.3 ± 2.9	61.6 ± 2.3	17.0 ± 0.8	3.1 ± 0.4
サマークイーン	84.1 ± 32.5	65.6 ± 9.8	58.4 ± 8.5	16.7 ± 1.2	3.2 ± 0.3

「±」は標準偏差